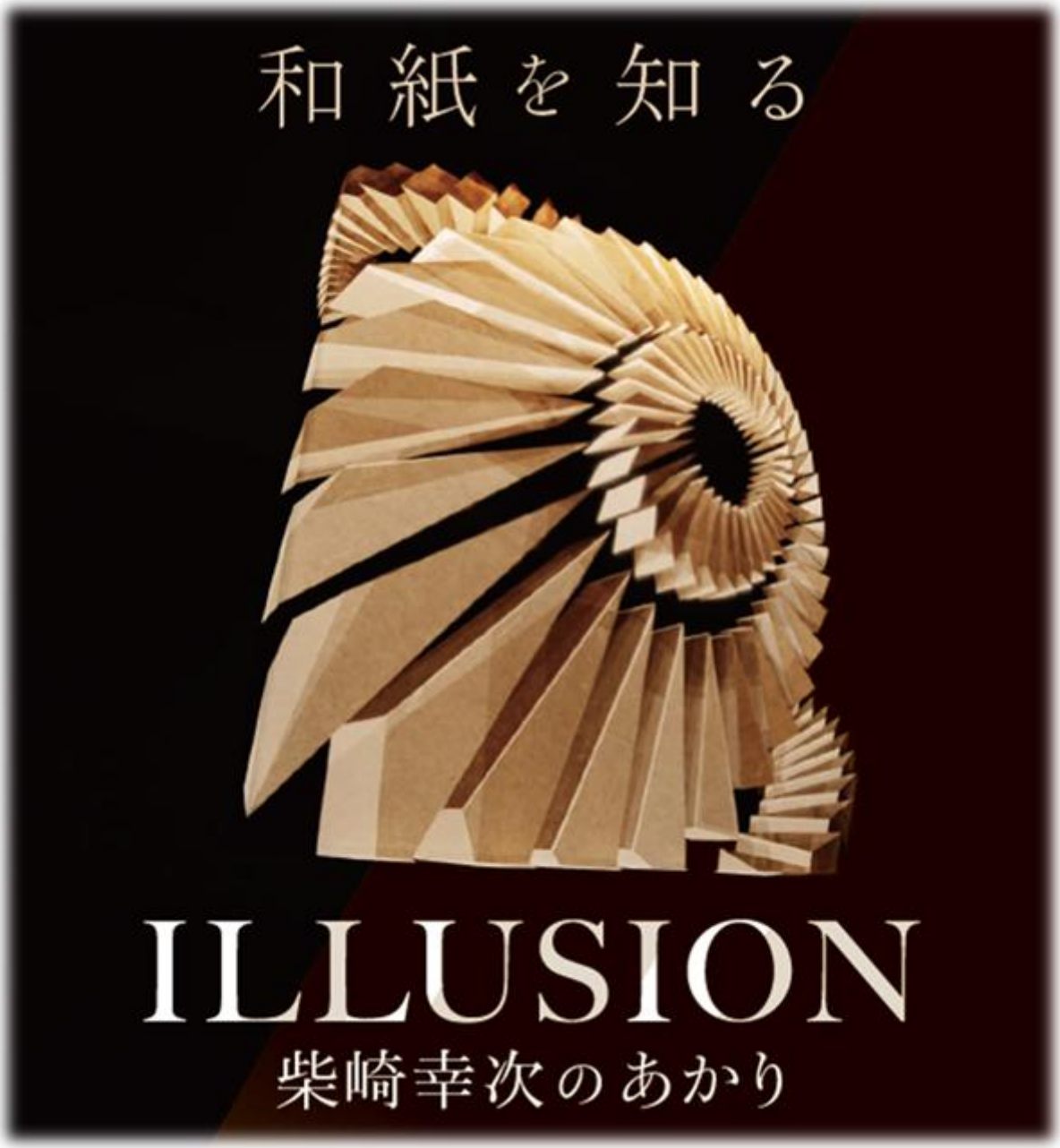
展覧会プレスリリース



ヤマザキ マザック美術館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

〒461-0004　愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
地下鉄東山線「新栄町」1 番出口直結
ＴＥＬ：052-937-3737

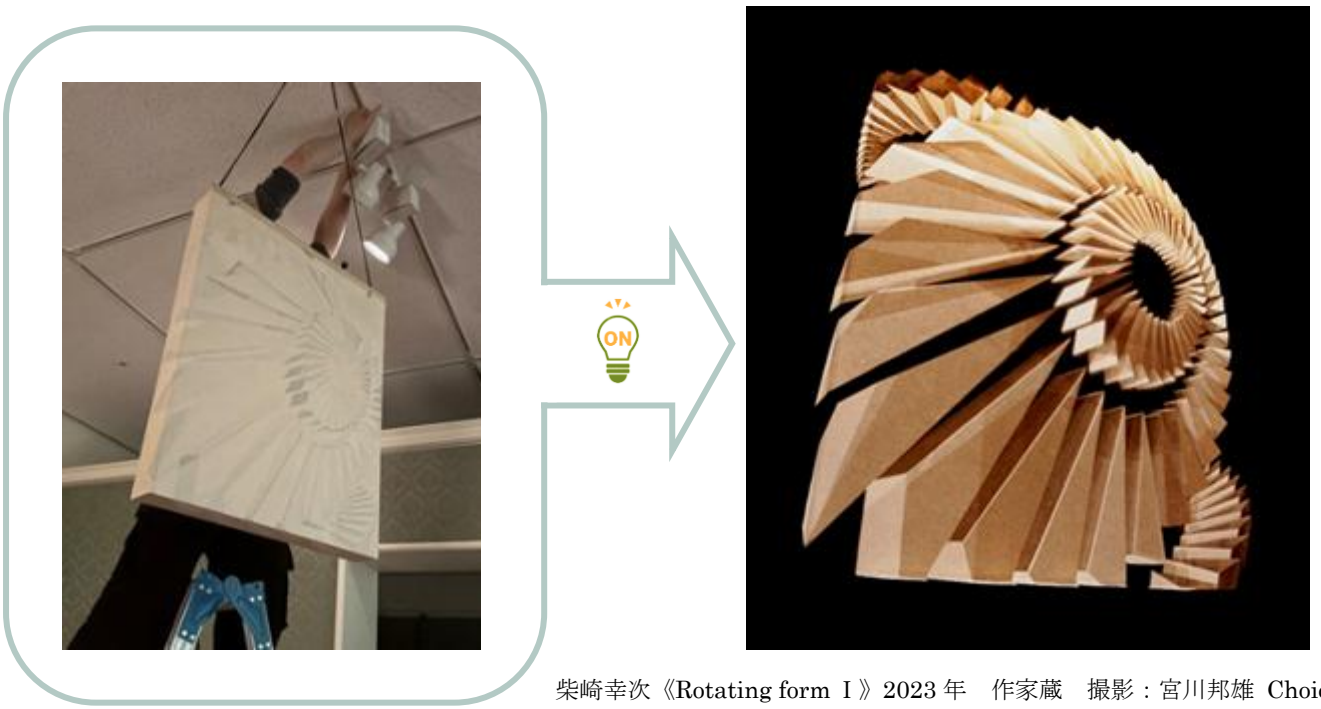
特別展「和紙を知る　ILLUSION　柴崎幸次のあかり」

開催のご案内

インテリア・アーティスト 柴崎幸次(1964-)の代表作 **Nightface series**(ナイトフェイス・シリーズ)は、和紙を何層にも重ね貼りし、透過した光の陰影の差で不思議な立体感が現れるあかりです。明るい場所に置くと和紙に包まれた白い箱に見えますが、光を灯すと複雑な“だまし絵”のような立体感が現れ、より暗い環境になると錯視はさらにリアルに、迫真性が表現されます。

さかのぼること約 40 年前、柴崎が学生時代に制作したあかりは、10 年ほど経つと表面の紙がボロボロと崩れ、一方で、美濃和紙だけがそのまま残っていました。この経験は、柴崎が時代を超えて使える本物の和紙に興味を持つことへと繋がっていきました。2007 年には和紙工房を立ち上げ、以降は自らの手で漉いた和紙を作品に使用しています。

本展では、当館のアール・ヌーヴォー空間に柴崎のあかりが灯され、100 年以上前のフランスの職人たちの手による家具を照らします。また、近年手がけているタペストリー等の空間装飾作品や、エミール・ガレのデザイン装飾にインスパイアされて制作した新作のあかりも展示します。和紙を知り、本物の和紙の魅力を追い求めるインテリア・アーティスト柴崎幸次が創出する **ILLUSION**(イリュージョン)の世界、そして、国を超えて、時代を超えて、手仕事から生み出される美や質感を、こころゆくまでおたのしみ下さい。



柴崎幸次《Rotating form Ⅰ》2023 年　作家蔵　撮影：宮川邦雄 Choice

展 覧 会 概 要

1. 展覧会名：　「和紙を知る　ILLUSION　柴崎幸次のあかり」
   英語タイトル：　ILLUSION －　Washi Lighting by Shibazaki Koji

2. 会期：2026 年 10 月 23 日(金)～2027 年 2 月 28 日(日)

3. 会場：ヤマザキマザック美術館　461-0004　愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
   電話 052-937-3737　/　FAX 052-937-3789

4. 開館時間：平日　10：00～17：30　/ 土日祝　10：00～17：00　※入館は閉館の30分前まで

5. 休館日：月曜日(ただし11月23日、1月11日は開館)、11月24日、1月12日、
   年末年始(12月28日～1月4日)

6. 入館料：一般1300円(10名様以上1100円)、小・中・高生500円、小学生未満無料
   〔音声ガイド無料サービス〕

7. 主催：ヤマザキマザック美術館、中日新聞社

8. 協力：株式会社カセットミュージアム、クラヴサン工房アダチ

9. 後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋市教育委員会、
   公益財団法人名古屋市文化振興事業団

10. 記者発表会：　2026年10月23日(金)　14：00～15：00（13：45より1階で受付開始）
    ※当日は作家本人が来場致します。

11. 問い合わせ先：展覧会担当学芸員　坂上しのぶ　Shinobu_Sakagami@mazak.co.jp
    広報担当　西川由佳里　Yukari_Nishikawa@mazak.co.jp

展 覧 会 に よ せ て ―作家の言葉

Nightface series は、学生のころに思いついたアイデアが元になっています。課題であかりを考えていた際、電球の光に紙をかざして見ていたら、何枚か重ねた時、立体の家みたいなものが見えてきて、それを応用して幾何学の作品が生まれたのです。以来、同じ発想で制作を続けています。

学生時代に制作したあかりは、10 年ほど経つと表面の紙がボロボロになってきました。当時は知識が乏しく、あかりに使用した紙は和紙だと思っていたものの、実際には和紙に似た粗悪な紙と本物の美濃和紙が混在していました。10 年経過して粗悪な紙が劣化してボロボロになった一方で、美濃和紙だけはそのまま残っていました。この経験が「本物の和紙をもっと知る必要がある」と考えるきっかけとなり、時代を超えて使える本物の和紙に興味を持つようになりました。

その後、実際に自分で紙を作る必要性を感じ、和紙工房を立ち上げました。現在では紙を自分で作るのは当たり前のことになりましたが、当時、まだ紙は店などで選んで購入するのが一般的でした。また学生と共同で時間をかけて、時代を超える強度を持つ和紙の製法を学びました。その過程で、制作に関する製図もコンピュータで描けるようになり、複雑な三次元の図案も作成できるようになりました。こうして現在の作品の展覧会活動に至っています。



撮影：宮川邦雄 Choice

本展では、尊敬するエミール・ガレの工芸装飾の描画的表現へのオマージュとして新作の制作を進めてきました。ガレが日本の文物や植物から影響を受けてきたことや、植物や昆虫など自然のモチーフからデザインを生み出す感性を受け取り、自分なりに想像しながらデザインに取り組んだのです。また今回は草木染めによる和紙をたくさん制作し色彩を多用しています。和紙を重ねることにより、色の深みによる錯視が現れるように試行錯誤を繰り返しました。

本展を通じて、私の作品はもちろんのこと、和紙という素材の奥深さや魅力を存分に感じていただければ幸いです。

柴崎 幸次

展 覧 会 の 見 ど こ ろ

1 白い箱に光を灯すと不思議なイリュージョンの世界が現れる！

柴崎幸次の代表作 **Nightface series** にフューチャーした、国内初の**大規模展**です。**Nightface series** は、明るい場所では白い和紙の箱に見え、内部の光を灯すと複雑に積み木が重なりあっているような不思議な幾何学模様が浮び出すあかり作品です。

本展では、展示室全体に **Nightface series** を配置。120 年余り前にフランスの職人たちによってつくられたアール・ヌーヴォーの家具を照らします。

(Nightface series のイリュージョンはとてもリアルで、観客は、つい、触ってみたくなる衝動に駆られてしまいますが、残念ながら DO NOT TOUCH です。)

2 尊敬するエミール・ガレへのオマージュ ✨

アール・ヌーヴォー作品の展示室であることをふまえ、本展初公開の新作には柴崎が日頃から尊敬しているアール・ヌーヴォーの作家 エミール・ガレの工芸装飾の描画的表現が取り入れられています。**新作のアール・ヌーヴォー風のあかり**は必見です。



エミール・ガレ
《オダマキ文花器》
1898-1900 年
ヤマザキマザック美術館

3 和紙を知る＝和紙の魅力を知る展示 🔎

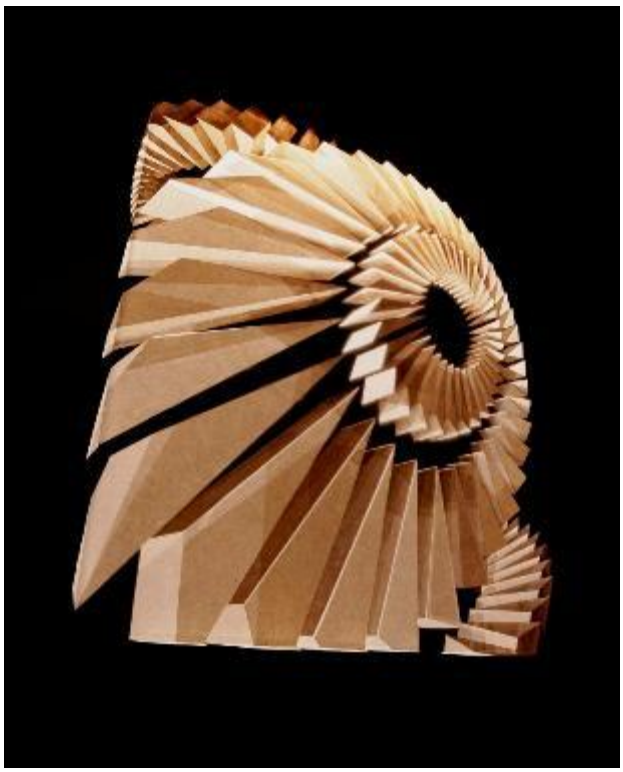
和紙研究者としての顔を持つ柴崎は、自分で漉いた和紙を作品に取り込んでいます。本展では草木染めによる和紙を多用しており、ナイトフェイスが持っている独特の肌触り＝触覚感や温かみは、**自作の和紙**を利用することで生み出されています。

加えて、タペストリーなどの作品には大学内で出た和紙のゴミ(紙の縁、失敗した作品など)を再生して使っています。近年、世界規模で意識されてきている SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みのひとつとして挙げられる項目のようでもありますが、これは“漉き返し”という古くから日本に伝わる由緒ある古紙再生方法です。

また、展覧会の最後では、柴崎が産学連携事業として取り組んでいる、廃棄物から紙をつくるプロジェクトを紹介します。

わたしたち日本人が、あらためて**「和紙を知る」＝和紙の魅力を知る**、機会となることでしょう。

主 な 出 品 作 品



《Rotating form I》2023 年　　撮影：宮川邦雄 Choice





左から：《Night magnolia I(夜木蓮 I)》2026 年　於：ヤマザキマザック美術館

《Blue-violet aquilegia(青紫のオダマキ)》2026 年　於：ヤマザキマザック美術館



左から順に：

《Pale violet aquilegia(薄紫のオダマキ)》2026 年　撮影：宮川邦雄 Choice

《Blue-violet aquilegia(青紫のオダマキ)》2026 年　撮影：宮川邦雄 Choice

《Night magnolia I(夜木蓮 I)》2026 年　撮影：宮川邦雄 Choice

《Purple morning glory in dark blue(群青に紫の朝顔)》2026 年　撮影：宮川邦雄 Choice

《Night morning glory(夜の朝顔)》2026 年　撮影：宮川邦雄 Choice



《Purple morning glory in dark blue(群青に紫の朝顔)》(部分)
2026 年　撮影：宮川邦雄 Choice



*作品のモチーフとなったガレのランプ
エミール・ガレ《朝顔文ランプ》1904 年頃
ヤマザキマザック美術館

特別展「和紙を知る　ILLUSION　柴崎幸次のあかり」(10/23～2027/2/28)

情報掲載用画像・読者プレゼント用招待券利用申込書

・「和紙を知る　ILLUSION　柴崎幸次のあかり」展の情報掲載の際に、下記の画像をご使用いただくことができます。※展覧会終了後は使用することができません。
・画像をご使用の際は必ずキャプションを併記願います。
・画像はトリミングや字のせなどの加工をせずにそのままの形でお使いください。

貴 社 名		ご担当者名	
媒 体 名	✓をご記入ください。 ☐ 紙媒体 ☐ Web ☐ その他（　　）		
画像番号	次ページの画像一覧をご参照のうえ、掲載を希望される画像の番号に〇をお付けください。 担当者が申込書を確認の後、データをご提供致します。 1　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12		
ご 住 所	〒		
ご連絡先	TEL　　FAX　　MAIL		
ご掲載予定日	＊保管用に見本誌を 1 部お送りいただけますと幸いです。		

・画像を使用して展覧会情報をご掲載いただける場合、読者プレゼント用に招待券をご提供可能です。
　下記に〇を付けてご回答ください。
　→ 招待券の提供を（　希望する　・　希望しない　）
　　└→ 必要枚数は（　3 組 6 名分　・　5 組 10 名分　）

掲載用展覧会概要文

＊記事作成の際にご活用ください。

〔300 文字程度〕

柴崎幸次の代表作ナイトフェイス・シリーズは、和紙を何層にも重ね貼りし、透過した光の陰影の差で不思議な立体感が現れるあかりです。明るい場所に置くと和紙に包まれた白い箱に見えますが、光を灯すと複雑な“だまし絵”のような立体感が現れ、より暗い環境になると錯視はさらにリアルに、迫真性が表現されます。

本展では、当館のアール・ヌーヴォー空間に柴崎のあかりが灯され、100 年以上前の家具を照らします。また、エミール・ガレのデザイン装飾にインスパイアされて制作した新作のあかりも展示します。和紙を知り、本物の和紙の魅力を追い求めるインテリア・アーティスト柴崎幸次が創出する ILLUSION(イリュージョン)の世界をお楽しみください。

〔100 文字程度〕

和紙に包まれた白い箱に光を灯すと、複雑な“だまし絵”のような立体感が現れる不思議なあかりを展示します。和紙を知るインテリア・アーティスト柴崎幸次が創出する ILLUSION(イリュージョン)の世界をお楽しみください。

お問い合わせ先：ヤマザキマザック美術館　企画課　広報担当　西川　由佳里
TEL 052-937-3737 / FAX 052-937-3789 / MAIL Yukari_Nishikawa@mazak.co.jp

---

＊ご記入いただいた個人情報は、本件における諸連絡また今後の催事情報のご案内のみに使用し、許可なく第三者に開示することはありません。

掲 載 用 画 像 一 覧

1 	5 	9 
キャプション	キャプション	キャプション
《Rotating form Ⅰ》2023年 作家蔵	《Purple morning glory in dark blue(群青に紫の朝顔)》2026年 作家蔵	《Sankaibishi lamp Ⅰ》2013年 作家蔵
2 	6 	10 
キャプション	キャプション	キャプション
《Pale violet aquilegia(薄紫のオダマキ)》2026年 作家蔵	《Night morning glory(夜の朝顔)》2026年 作家蔵	会場イメージ：《Blue-violet aquilegia(青紫のオダマキ)》2026年 作家蔵
3 	7 	11 
キャプション	キャプション	キャプション
《Blue-violet aquilegia(青紫のオダマキ)》2026年 作家蔵	《Paper modeling III》2017年 作家蔵	会場イメージ
4 	8 	12 
キャプション	キャプション	キャプション
《Night magnolia Ⅰ(夜木蓮Ⅰ)》2026年 作家蔵	《Sankaibishi lamp II (diamond pattern)》2013年 作家蔵	作家ポートレート

作 家 略 歴



柴崎 幸次(しばざき こうじ)

1964 年京都市生まれ。愛知県立芸術大学デザイン専攻卒業。龍谷大学経営学研究科修了。1988-1991 年(株)竹中工務店勤務、その後 1991-1999 年までインテリアとメディアのデザイナー。現在、愛知県立芸術大学デザイン専攻教授。2003 年「美濃和紙あかりアート展」大賞、2006 年「第 46 回日本クラフト展」読売新聞社賞等、受賞多数。

「紙を知り、経験する」を第一の目標に自ら大学内に和紙工房を作り、和紙を教育プログラムに取り入れ 20 年近く継続。自らの作品の和紙も自身の工房で漉き、学生と共同で和紙素材の研究展を開催している。また、和紙の産地視察旅行、海外との紙研究に関する国際交流プロジェクトを主催するなど、和紙を題材に幅広い活動を行っている。

和紙による照明作品 Nightface series による展覧会は柴崎の代表的な活動である。光を遮り、闇を創り、和紙のタペストリーと小さな光で見せる会場演出により、従来の日本家屋で使われた照明と唐紙や掛け軸、障子のなど光が透ける関係を忠実に作品として再現。和紙に施された金箔、銀箔、雲母などを巧みに利用した演出により、かつて行灯の小さな光が育んだ「日本家屋の光の思想」を鑑賞者は体験することができる。

近年は「廃棄物+廃棄物で紙をつくる。サステナブル時代の、連想、偶発、アイディエーション！」と題し、紙文化のあらたな価値を探求している。

主な展覧会(Nightface series 関連)

●●● 個展 ●●●

2005 年 10 月 29 日 30 日、11 月 3 日-6 日、11 月 12 日 13 日
「柴崎幸次　照明作品展 Nightface series」井元家住宅(名古屋市／愛知県)
はじめてのナイトフェイス・シリーズによる個展

2007 年 1 月 6 日-2 月 21 日「柴崎幸次　照明作品展」石谷家住宅(八頭郡智頭町／鳥取県)
智頭雪祭りの展示／企画：(一財)因幡街道ふるさと振興財団

2007 年 2 月 24 日-4 月 3 日「Nightface series in 柳川」旧戸島家住宅(柳川市／福岡県)
さげもん祭りの展示／企画：柳川市

2008 年 3 月 20 日-4 月 6 日「柴崎幸次照明作品展　NIGHTFACE SERIES“和紙の灯りのあそび”」
キンシ正宗株式会社 堀野記念館(京都市／京都府)／企画：キンシ正宗株式会社

2013年10月11日-10月14日「和紙の灯りあそび・旧岩崎邸」旧岩崎邸(台東区／東京都)
企画：東京都公園協会企画
2014年12月20日-2015年2月28日
「ヌーヴォーの灯りとデコの光り―空間で感じるイルミネーション」
箱根ラリック美術館(箱根町／神奈川県)
2016年1月2日-3月6日「照らす光と照らされるもの～柴崎幸次の灯りの世界～」
古川美術館分館爲三郎記念館(名古屋市／愛知県)
2018年12月20日-12月30日
「KOJI SHIBAZAKI, Nightface Series - Washi Paper Lighting Exhibition」
Ossam Gallery(ニューヨーク／アメリカ)
2019年4月5日-9月22日「SCHATTEN. LICHT. STRUKTUR. PAPIERINSTALLATIONEN VON KOJI SHIBAZAKI」(影 光 造形 柴崎幸次のペーパーインスタレーション)
バイエルン州立五大陸博物館(Museum Fünf Kontinente)(ミュンヘン／ドイツ)
2026年10月23日－2027年2月28日「和紙を知る ILLUSION 柴崎幸次のあかり」
ヤマザキマザック美術館(名古屋市／愛知県)

●●● グループ展 ●●●

2007年10月27日-11月5日「浅田重子・柴崎幸次展　布の手あそび　和紙の灯りのあそび」
老舗旅館三楽荘(庄原市東城町／広島県)企画：庄原市役所東城町
2009年4月22日-4月27日「ミラノサローネ国際家具見本市」(ミラノ／イタリア)
2012年11月23日-12月2日「日本文化・伝統と現在展」
アキテーヌ博物館ギャラリー、サンレミ教会(ボルドー／フランス)
2017年1月26日-2月24日
「和紙：伝統と創造　Washi Paper, Cultural Heritage and Artistic Creativity」
The Nippon Gallery 日本クラブ(ニューヨーク／アメリカ)
2017年8月26日-9月21日
「Washi Art and Design: International Paper Art Exhibition and Surihaku Workshop」
Ivy Tech John Waldron Arts Center(インディアナ州ブルーミントン／アメリカ)
2018年3月7日-13日「EXEMPLA 2018　“Japanese Washi Art & Design”」
欧州で最大規模の手工芸の国際見本市(ミュンヘン／ドイツ)
2021年8月2日-8月7日
「シャッテン. リヒト. ストゥルクトゥア ～影、光、造形～　柴崎幸次　鈴木美賀子」
小津ギャラリー(中央区／東京都)
2023年5月13日-10月29日
「SCHATTEN LICHT GESTALT. WASHI PAPIERKUNST VON KOJI SHIBAZAKI UND MIKAKO SUZUKI」(影 光 形 和紙 紙の芸術　柴崎幸次と鈴木美賀子)オーバーハウス博物館(パッサウ／ドイツ)
2025年1月30日－2月21日
「Artistic Expression through Washi From Tradition into the Future(和紙の芸術表現　伝統から未来へ)」The Nippon Gallery 日本クラブ(ニューヨーク／アメリカ)

展 覧 会 関 連 イ ベ ン ト

講演会

「和紙をテーマに幅広く活動を行う柴崎氏から、素材研究についてお話を伺います。愛知県立芸術大学内に創設した和紙工房の活動についてやサステナブルと紙など、紙(和紙)文化の過去・現在・未来を語っていただきます。

「和紙を知る」

講師：柴崎幸次氏(愛知県立芸術大学美術学部デザイン工芸科デザイン専攻教授)

日時：2027 年 1 月 10 日(日)14：00～15：30　13：30 開場

開催場所：マザックアートプラザ(美術館北側隣接ビル)4 階会議室

予約：2026 年 11 月 13 日(金)よりお電話(052-937-3737)にて承ります。

定員：60 名(自由席)

参加費：無料ただし要本展鑑賞券(半券でも可)

ガイドツアー

●●● 作家と当館学芸員がご案内 ●●●

製作の裏話や制作技法についてお伺いすると共に、展覧会の見どころをわかりやすく解説します。

参加無料※ただし要当日鑑賞券 / 予約不要 / 定員 20 名(先着順)

日時： 11 月 14 日(土)、12 月 12 日(土)、2 月 13 日(土)　10：30～11：30

●●● 当館学芸員がご案内 ●●●

展覧会の見どころをわかりやすく解説します。ツアー最後には、安達正浩氏が製作したチェンバロの音色で、出品作品《美しく青きドナウ》の図形楽譜をお楽しみいただきます（演奏はツアー時間内に含みます）。

参加無料※ただし要当日鑑賞券 / 予約不要 / 定員 20 名(先着順)

日時:10 月 24 日(土)、11 月 28 日(土)、12 月 26 日(土)、1 月 23 日(土)、
2 月 27 日(土) 10：30～11：30



※イメージ画像　協力：クラヴサン工房アダチ

ナイトミュージアム

「オンド・マルトノ ϟ チャップマン・スティックライブ　Technology Loves Muses」

1928 年フランス生まれのオンド・マルトノと 1970 年代アメリカ生まれのチャップマン・スティック。2 つの電子楽器で構成されたデュオ「擬態の翼」が本展に寄せて書き上げた新曲を含め、音楽性豊かな楽曲の数々を披露します。

日時：12 月 19 日(土)　17：45 受付開始 / 18：15 開演 / 19：15 終演予定

会場：ヤマザキマザック美術館 5F 展示室

出演：擬態の翼（市橋 若菜[オンド・マルトノ]、弓削 聰[チャップマン・スティック]）

費用：友の会会員 2,000 円(税込)　一般 4,500 円(税込)　※一般申込者には本展覧会の当日券付

お申込み：11 月 27 日(金)より美術館 1F 受付、もしくはお電話(052-937-3737)にて承ります。

美術館ご紹介

ヤマザキマザック美術館のコレクションは、フランス美術300年の流れを一望できる構成となっています。5Fの展示室では、ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール、シャルダンらに代表されるロココの時代にはじまり、ロマン主義のドラクロワ、新古典主義のアングル、写実主義、印象派、エコール・ド・パリと、18世紀から20世紀に至る絵画作品をご紹介しています。

4Fの展示室では、19世紀末にフランスを中心に花開いたアール・ヌーヴォーの工芸作品を所蔵・展示。棚や椅子、テーブル、暖炉、壁面フレームと一部屋まるごと完備したアレクサンドル・デュマのダイニングルームなどが、当時の邸宅の雰囲気を伝えます。また、エミール・ガレやティファニーのガラス工芸作品も豊富にご覧いただけます。









ヤマザキ マザック美術館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART
〒461-0004　愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
TEL:052-937-3737　FAX：052-937-3789